

◇支部報告◇

関東支部「秋の見学会」報告記

平成 17 年 1 月 28 日(金)、雲一つない晴天の下、吉澤石灰工業(株)および三峰鉱山を見学する関東支部見学会が開催された。参加者は全部で 17 名(うち学生は 6 名)、午前 10 時過ぎ、集合場所の、JR 両毛線と東武日光線が乗り入れる栃木駅北口に集合した。マイクロバスで栃木県安蘇郡葛生町の三峰鉱山に向かった。集合場所の栃木駅から現地まではおよそ 30 分足らずの移動であったが、現地に近づくにつれて、大型ダンプカーとすれ違う頻度が次第に高くなり、すれ違いのために道路を譲り合う場面も多くなった。鉱山に入り、マイクロバスの車内でも工事用のヘルメットの着用が義務づけられた。鉱山専用の大型ダンプ・ショベル等の大型重機を車窓に急勾配とカーブが続く埃っぽい砂利道を登り、鉱山全体を見渡せる見学場所に到着した。見学場所では、三峰鉱山全体を眼下にし、北関東の峰々の眺望できる雄大な景観を得られた(写真)。数少ない日本の鉱物資源である石灰岩、ドロマイト(和名:苦灰石、組成式:  $\text{CaMg}(\text{CO}_3)_2$ )が層状に堆積した地層が半円状に分布していること、ベンチカットと呼ばれる階段状に 1973 年から三峰地区は採掘が始められたこと、周囲の景観を損なわないよう配慮して採掘が行われていること、数社の採掘会社で鉱区を分けて採掘していること、吉澤石灰工業(株)の三峰地区の砕鉱量は月産 180000 トンであること、推定採掘可能年数が 200 年であること等が説明された。また、採掘のために通常は 2 日ごとに発破を行っているとのことであ

たが、当日は発破実施に該当した。発破の際、全員下山する必要があるとのことであった。

昼食後、採石した石灰岩、ドロマイトの製品化を行っている吉澤石灰工業工場を見学させて頂いた。工場は、かつての採掘現場に隣接し、三峰鉱山からは数キロ離れた場所に位置していた。三峰鉱山を始めとした近隣の鉱山から大型ダンプで鉱石を輸送している様子が垣間見られた。月間数十万t という膨大な鉱石を製品化するだけあって工場内の粉碎・水洗・熱処理といった各施設も巨大で多くの見学者はその大きさに圧倒されているようであった。各施設からでる廃熱も可能な限り有効に利用できるように工夫がなされていた。

ナノテクノロジー、ナノ材料ともてはやされる昨今の情勢にあって、数十万トンというス

ケールの大きな産業を目の当たりにし、材料産業の奥深さを再認識したというのが、関東支部長をはじめ、筆者を含めた参加者の感想ではなかったかと推察している。見学会当日が好天に恵まれ、見学会が滞りなく開催されたことで一層そのような思いに駆られたのではないかと思う。

末筆ながら、本見学会の企画・実行に尽力下さった安江任日本大学教授をはじめ、吉澤石灰工業(株)の方々、日本大学理工学部物質応用化学科のスタッフ、学生の皆様に感謝申し上げます。

(山梨大学大学院医学工学総合研究部  
綿打敏司)

